

LINN LP-12 の再構成(36) (HP 収載)

1. はじめに

前報(35)の LINN LP-12 のフォノケーブルのバランス化などの効果を確認します。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

LINN LP-12 の再構成の実施内容は、前報(35)のとおりです。

前報(35)の対策の確認を下記音源で行います。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

前報(35)では、仮設置であったフォノ入力とアース線の設置を整理しなおしました。バランスアナログアキュライザーには、300B アンプのヴォリュームから外してきたヴォリュームアキュライザーを貼り付けています。



左：バランスアナログアキュライザー経由
バランス入力
右：アースアキュライザーと AV ドーナッツ
矢印：バランスフォノケーブル

バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、倍音の伸びが向上し、音色に艶が増し、ボウイングの細かい表情が聴き取りやすくなっています。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、全般的に響きが豊かになっており、弱打と強打のダイナミックレンジが広がったように感じられ、アンダの華やかなピアノが展開されます。

ワーグナーのワルキューレは、全体的に押出が強く、金管の質感がしっかりできています。ソプラノやメゾソプラノの歌唱は張りがあり、歌手達の前後、左右の位置関係が明瞭です。

ヘンデルのメサイアは、動作確認の前報(35)を受けて、フォノ入力とアース線の設置の見直し後の再確認です。基本的には、前報(35)の印象と同様ですが、詳しく述べますと、合唱の分離と協和が向上し、シュワルツコップの歌唱に力強さが出て、ヴィブラートの細かい動きが分かりやすくなっています。トランペットを伴うバスのアリアでは、バスの力強い歌唱とトランペットの輝きを支える通奏低音の動きも明瞭です。

上記を通して言えることは、フォノケーブルのバランス化により静寂感の中から音楽が湧き出る印象となっています。

4. まとめ

フォノケーブルのバランス化を主要な対策として、ターンテーブルのメカ強化やモーターの電流強化、アースアキュライザーを AV ドーナッツに通じたこと、ベルト交換などの総合的な効果も認めました。

以上

